

| 2 0 2 1 年度 秋田市文化創造館 パートナー事業 **報告書**

もくじ

秋田市文化創造館パートナー事業について	0 4
ストピリエゾン	05
MAP(Mobile Alternasu Project)	07
あそびのはじまり実行委員会	09
酒泡酒泡クラブ	11
アンリミテッドカラー	13
全日本積穂俳画協会秋田教室	15
土方巽記念秋田舞踏会	17
最終報告会レポート	19
最終報告会総括コメント	20



秋田市文化創造館パートナー事業について

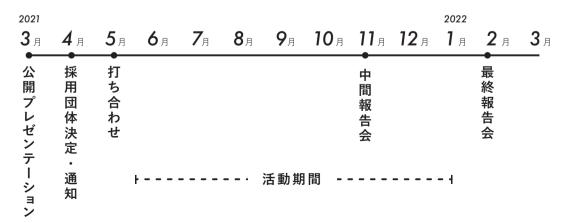
文化創造館および秋田市中心市街地を活動の拠点とする市民のユニークな活動を公募し、その実現に向けてさまざまな支援を行う「秋田市文化創造館パートナー事業」。 文化創造館が開館した2021年3月21日に公開プレゼンテーションを行い、コメンテーター(審査員)による審査の結果、7団体を「秋田市文化創造館パートナー」に認定。文化創造館のコーディネーターと共に1年間活動しました。

パートナー団体の顔ぶれは、学生、主婦、会社員などさまざま。その活動も子どもの遊びをテーマにしたイベントや舞台公演、盆踊り大会まで多岐に渡ります。そんな団体が抱える問題意識や「やりたいこと」の実現のため、コーディネーターとアイデアを出し合いながらさまざまなことにチャレンジ。それによって団体同士のコラボレーションや活動を通じたつながりも数多く生まれ、当初の想定を超える大きな成果となりました。2022年1月に実施した最終報告会ではその成果を発表し、「面白い活動を生み出していく」という思いを新たにしました。

この報告書は最終報告会における団体による報告や、コメンテーターやゲスト、コーディネーターによるコメントをもとに作成しました。パートナー団体の活動を振り返り、これからの秋田のまちなかを面白くする活動につなげていきます。改めて、パートナー団体の皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

2022年3月 秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター 前田優子、齊藤夏帆、島崇

【事業年間スケジュール】



ストピリエゾン

ストリートピアノを使用した活動



【実施概要】

秋田県内に設置されているストリートピアノを活用したイベントの開催や、ストリートピアノにまつわる 映像の制作・YouTube での発信によって、ピアノや音楽を通じた人のつながり、そしてピアノのあるま ちの魅力を発信する活動を行なった。潟上市・北秋田市・秋田市で開催したストリートピアノイベント では、地域の店舗やマルシェイベントとのコラボレーションを積極的に行い、これまでストリートピアノ に触れたことのなかった人々への波及効果が生まれた。

【団体プロフィール】

2019年7月からエリアなかいちに設置された街角ピアノを弾き始め、そこで生まれる人と人との交流の素晴らし さに感動。設置者の広小路商店街振興組合と積極的に交流し、2019年11月には、街角ピアノを使用したイベント を開催。このイベントを機に「もっとストリートピアノを何かに役立てられないか」と思うようになり、「ストピリエゾ ン |を結成。ストリートピアノを愛する人たちと、ストリートピアノの魅力を広げたいという思いで活動中。



インタビュー記事



YouTubeチャンネル

【活動スケジュール】



【活動を終えて】

秋田にはたくさんのストリートピ アノが設置されています。ストピリ エゾンはその魅力をたくさんの方 動をしてきました。

動画です。動画を見てピアノを弾い えたりとても良かったです。 てみたい方や始めてみたい方が 制作しました。

キャラバンと、ピアノはじめてさん ワークショップです。文化創造館で はフリーマルシェとコラボするな 行いました。

知ってもらいました。さらには、私た ちが伝えたかった "ストリートピア ノを通じた交流の素晴らしさ"も感 に知ってもらうためにさまざまな活じてもらえたと実感しています。 パートナー同十のつながりを持て 一つ目の活動はストリートピアノ たことも、互いの活動状況を確認 を弾く人の思いを探るインタビューできたり、イベントにも参加してもら

秋田県は人口に対するストリー 増えて欲しいという思いを込めてトピアノの設置数が日本一で、日 本一ストリートピアノに恵まれてい 二つ目の活動は各地のストリー る県です。これからもこのような活 トピアノをめぐるリレーコンサート動を進めて、もっとたくさんの方々 にストリートピアノを知っていただ きたいです。動画に出演してくだ さった皆さん、イベントに参加してく ど、各地域の出店者とのコラボも ださった皆さん、活動を後押しして くださった文化創造館の関係者の このような活動を通じてたくさん 皆様にも改めて感謝したいです。 の人にストリートピアノの存在を 本当にありがとうございました。



インタビュー動画 YouTubeチャンネルより



ストリートピアノイベント@天王グリーンランド



ストリートピアノイベント@秋田市文化創造館

コメンテーターから

普通に見えている秋田の文化もストリートピアノという一 つの視点で見るとちょっと違って見えるんだなと感じまし た。ストリートピアノにこだわって、どこまでも取り組んで いけば素晴らしいものが出来上がると思いました。

納谷信広(秋田市観光文化スポーツ部長)

コーディネーターから

近年急速に設置箇所が増えているストリートピアノ。 YouTube や SNS ではプレイヤー同十のつながりも全国 規模で広がっています。ストピリエゾンのお二人の活動 は、愛好家同士の交流にとどまらないつながりを大切に されていることが素晴らしいと思いました。

前田優子(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

MAP (Mobile Alternasu Project)

まちなかゲームブック制作プロジェクト



【実施概要】

まちで見聞きしたものや発見したものを既存のカテゴリーに当てはめず他者へ伝えること目指し、ゲームブックの作成に挑戦。活動エリアを文化創造館から徒歩10分にある通町商店街として、まち歩きとインタビューを重ねた。まちの歴史はもちろん、自分たちがまち歩きを通して想像したことも記録し、フィクションとノンフィクションを織り交ぜたゲームブック『トオリマチ奇譚』を作成した。

【団体プロフィール】

MAP (Mobile Alternasu Project) は、オルタナティブスペース"オルタナス"を運営するメンバーを軸とした団体。 「語らいながらまちを歩く」ことをベースに、屋台を引きながらまち歩きやインタビューを重ねる。そこで見聞きした 言葉や音、景色とそこで生まれた感覚を収集し、既存のカテゴリーに当てはめることなくアーカイブし、他者へ情報 を伝える方法を模索している。

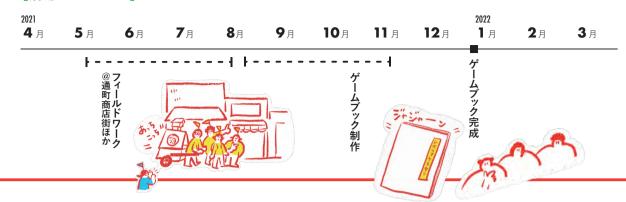


インタビュー記事



トオリマチ奇譚

【活動スケジュール】



【活動を終えて】

MAP は「まちなかゲームブック制作プロジェクト」という名称で活動しました。ゲームブックとは読者の選択によってストーリー展開や結末が変わる本です。私たちが歩く中で見聞きした言葉、音、景色、そこで生まれた感覚をどのようにすれば分類せずに紡ぐことができるのか。この問いをきっかけに、アーカイブ方法を模索しながらプロジェクトを進めました。

通町商店街を対象に5月からリサーチを開始しました。初めに土地の歴史に詳しい方と一緒に歩きながら通町の歴史を学びました。

次に文化創造館内に拠点づくりを 行いました。集めた情報を展示しな がら、まち歩きリサーチができるよう に屋台をベースに作って、実際に屋 台を引いて通町にお店を構える方々 に取材をさせていただきました。屋台 を動かしていない間は「質問おみく じ」という質問を引いて回答を投函し てもらうコーナーを設置することで、 情報が集まる仕組みを作りました。

屋台をベースとしたリサーチをしたことで、まちの方から声をかけられたり、プロジェクトに関しての関心を得られたり、いつもとは違うコミュニケーションが取れました。

ゲームブックは文化創造館に置いているのに加えて、館のウェブサイトにも掲載しています。ご興味のある方は是非お手に取ってご覧ください。



フィールドワーク@通町



質問おみくじ



通町のリサーチマップ

コメンテーターから

まちは一人ひとりが違う物語を発見できる場所なんです よね。物語は色々な所に眠っていて、偶然の出会いの中 から、突然目の前に現れてきます。ゲームブックはそれを すごく引き出していて面白いなと思いました。

齋藤一洋(秋田市デジタル化推進本部長)

コーディネーターから

多くの人におすすめしたい一冊が爆誕しました。既存のカテゴリーに当てはめず、まちのことをそのまま伝えるには…という問いをゲームブックにするというアイデアで乗り越えていった思考の軽やかさに「すごい!」の一言です。

齊藤夏帆(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

あそびのはじまり実行委員会

あそびのはじまり2021



【実施概要】

知る・考える・作り出すことを通して創造性を育む体験イベント「あそびのはじまり2021 |を開催。五感を 刺激し、探求心や好奇心の芽を伸ばす「あそび」と、地元秋田の企業やクラフトマン、アーティスト、デザ イナーらを講師に迎えたワークショップなどを交えてイベントを行った。当日は約500人の親子連れが 参加し、文化創造館のコミュニティスペースや屋外が、子どもたちの歓声の溢れるあそびの広場になる 1日となった。

【団体プロフィール】

2017年より、子どものための遊びと学びの体験イベント「あそびのはじまり展」「あそびのはじまりフェス」を開催。 「あそびのはじまりは好奇心から」をテーマに、生きるちからの糧となる「あそび」の広場と、プロの知識や技から本 物を学ぶワークショップなどを行っている。



インタビュー記事

【活動スケジュール】



【活動を終えて】

「あそびのはじまり|は「あそびのは じまりは好奇心から | をテーマに、あ そびやおもちゃの大切さを知っても らえるよう、好奇心や五感を刺激する ような工夫を凝らしながら2014年か ら行ってきました。今回は文化創造 館の一階と外の部分を使用させて いただきました。子どもが生きてい く上で大切な「生きる力」をどうやっ て育んでいくかということに軸を置 いて、たくさんの大人の手によって あそびの場をデザインしていきまし た。中でも秋田公立美術大学の皆 様には過去にも連携した経緯があ り、今回も教授はじめ学生さんにごた。 協力をお願いしました。

や憧れを持つことはとても大切だ という想いから、秋田県内のモノづ くりの方々にワークショップをお願 いしました。

今回のイベントには500人ほどの 方が足を運んでくださいました。「ずっ と同じコーナーにいました」というご 感想もお客様からいただきました。

このような没頭できる環境を作れ たこと、あそびを周りの大人にもゆっ くりと見守ってもらえたこと、学生さん がイベント終了後も私たちに関わり たいと申し出てくれたこと、ワーク ショップの作り手さんたちが最後ま で何をどう伝えていくのかを考えてく れたこと、これらがあそびのはじまり を通して得た大きな財産になりまし

正解も失敗もない、今できる最善 本物に小さい頃から触れることを尽くして、子どもたちのために力を 合わせられたことがとても良かった と思います。ご協力いただきありがと うございました。



ワークショップの様子



みんなでお絵描き



広場でぼうけん

コメンテーターから

自分が子どもの頃にこういう体験ができる機会があっ たらとめちゃくちゃ思いました。ワークショップで作成し た本も見て、形に残るのもすごくいいなと思います。定 期的にあったら子どもたちが楽しみにして来るんだろう なと思いました。

上田さやか(ヴィレッジヴァンガード秋田オーパ店店長)

コーディネーターから

秋田でものづくりやアートに携わる方々が実行委員長の 工藤さん呼びかけのもと集まり、子どもたちのために作り 上げたイベント。秋田の豊かさをひしひしと感じました。屋 外広場、デッキ、コミュニティスペースに子どもたちの歓 声が響き渡る、ピースフルな一日でした。

前田優子(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

大忘踊大会



【実施概要】

忘年会と盆踊り大会を掛け合わせたイベント「大忘踊大会 | を12月に文化創造館で開催。12月までの 期間は、各地域のコミュニティセンターなどで盆踊りの練習会を実施したり、SNSで活動を発信するこ とで、踊りを一緒に楽しむ仲間を少しずつ増やしていった。イベント当日は、メンバーが工夫を凝らした やぐらが会場中央に設置されたほか、飲食や雑貨の販売ブースが設けられ、総勢170人ほどの人々が 集い、盆踊りを楽しんだ。

【団体プロフィール】

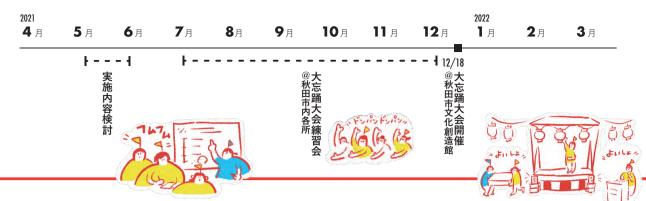
大忘踊大会実施のために立ち上げた団体。

おもしろいこと・たのしいこと・お酒をのむことが好きなメンバーで結成。



インタビュー記事

【活動スケジュール】



【活動を終えて】

酒泡酒泡クラブは2021年12月 に「大忘踊大会 | をスタジオ A で開 催しました。当初はお盆に開催する 予定でしたが、コロナ禍や準備期間 が短いこともあり、忘年会と盆踊り 大会を合体させた大忘踊大会を開 催することにしました。

夏から踊りの練習会を始めまし た。創造館での練習会は広報あきた や新聞に載せてもらったことで、多く の参加者が足を運んでくださいまし 方もいます。

あっという間に当日になりました。天 気が悪く不安でしたが、1部は97人、 2部は43人で、メンバーやサポート メンバー合わせて170人ほどの参 加となりました。

賞レースやレクチャータイムなど いました。

も設けて飽きさせないような工夫を しました。西馬音内盆踊り保存会の 踊りと、同じパートナー事業のアンリ ミテッドカラーさんのバンド演奏、司 会の方々も上手に盛り上げてくれて、 参加者の皆さんも喜んでいました。

洋楽や JPOPの曲を取り入れた盆 踊り大会は秋田では初だと思いま す。参加者やメンバーからは来年も 開催して欲しいという声や、練習会も 毎月開催して欲しいという声があり た。その後も続けて参加してくれたました。続けていくことが秋田を面 白くする企画につながるのではと思 春から何度も打ち合わせを重ねています。今後は遠征や盆踊り大会が ない地域への出張盆踊りも考えて います。メンバーはもちろん、関わっ てくださった全ての人たち、創造館 のスタッフさんには感謝の気持ちで いっぱいです。どうもありがとうござ







酒泡酒泡メンバー集合

コメンテーターから

激推しのイベントで密かに応援していました。間口の広い 誰でも楽しめるイベントになっていて、すごく良かったな と思います。当初描いていたソユースタジアム*でやる のも夢じゃないと思っています。

*八橋陸上競技場

上田さやか(ヴィレッジヴァンガード秋田オーパ店店長)

コーディネーターから

ゼロからのスタートにも関わらず企画が実現できたの は、発案者である越高さんのブレない思いと、それをか たちにしようと集った多才なメンバーのチームワークが あったからこそだと思います。今後も応援したい! 追い掛 けたい! と思わずにはいられない魅力的な団体です。

齊藤夏帆(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

アンリミテッドカラー

ふるさと秋田インタビュー



【実施概要】

秋田県内の個人や団体を対象にふるさとにまつわるインタビューを行い、50件近くの動画を YouTube で配信。また、ふるさとインタビューで出会った人々と共にライブと出店コーナーによるイベント「ふるさ と秋田クリスマスフェスタ 2021 |を開催。パートナー団体をはじめ、バレエやマジック、バンド演奏、雑 貨、占いコーナーなどさまざまなジャンルのライブや出店によるイベントを参加者と共に作り上げ、200人 以上が訪れた。

【団体プロフィール】

「秋田を音楽で元気にしたい!」をモットーに音楽活動を行う。県内での音楽イベントにバンド演奏で参加するほ か、病院の慰問演奏、県の施設等でも演奏。2019年から YouTube アンリミ TV で音楽動画を公開。パソコンでの 音源作成、楽器や声の録音、動画撮影(ドローンでの撮影もあり)、画像編集、音楽編集を全て手掛けている。また、 オリジナル曲の作詞、作曲、音源作成等も行う。



インタビュー記事



YouTubeチャンネル

【活動スケジュール】

4 月 11月 12月 10月





【活動を終えて】

アンリミテッドカラーは「あなたの ふるさとを自己 PR と一緒に教えてく ださい | というタイトルで、インタ いう発見がありました。 ビュー動画を作っていきました。地名 や生まれた場所だけでなく、心のふ るさとや思いなど、自由に話してい ただく内容にしたいと思いました。ま た、秋田の頑張っている人にスポッ トを当てて、著名人だけではなく、幅 広い人にカメラの前で話してもらい たいという思いもありました。

オリジナル楽曲 「ふるさと」をテー マソングに動画を作成し、完成した 動画は順次 YouTube と文化創造館 内で公開していきました。動画は50 本近くにのぼり、80人を超える方々 に出演していただきました。再生数 も9000回を超え、今も伸び続けて います。インタビューを重ねていくう ちに、こんなに秋田で活躍している

人や頑張っている人、秋田のことを 思っている人がたくさんいるのだと

そんな人たちと一緒に秋田を元 気にできることはないかと考え、動 画に出演してくれた人たちと共に12 月25日に「ふるさと秋田クリスマス フェスタ2021」を開催しました。ス テージ発表10団体、出店コーナー9 団体、200人以上の方々に来場して いただきました。

活動を通じてたくさんの方々と交 流を持つことができ、一人ひとりの 魅力に出会えたのはもちろん、今ま で知らなかった秋田の魅力も再認 識できました。出演してくれた皆さん や、文化創造館の皆さん、そして同じ パートナーの皆さん、本当にありが とうございました。



ふるさとインタビュー



クリスマスフェスタの様子



14

みんなで作り上げました

コメンテーターから

会いに行った人たちにふるさとについて話す機会を作っ たことで、最後にクリスマスフェスタで一緒にやろうとい う流れができたのだと思います。アンリミテッドカラーの 皆さんが立ち位置を変え、そういう流れをしっかり考えた ことで、すごくいい内容になったと思いました。

齋藤一洋(秋田市デジタル化推進本部長)

コーディネーターから

人と人とをつなぐ、そして人の思いを伝える。アンリミテッ ドカラーの皆さんは媒介者として在り続けました。今後も 彼らの活動によって秋田の多様な人々や文化が交錯し、 人々の思いが表出されることを期待しています。

島崇(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

全日本積穂俳画協会秋田教室

俳画って?



【実施概要】

俳画を様々な世代に親しんでもらうため、日本の伝統文化である俳画の世界を踏襲しつつ精力的に活 動した。新しい展示方法の検討と周知のための「俳画ミニ展示」を皮切りに、「届けよう!心あたたまる 絵をワークショップ |では親子向けワークショップやチラシ作りにチャレンジ。大胆に文化創造館の空 間を使用し、体験コーナーも設けた「第37回 俳画作品展 | には総勢500人以上が訪れた。

【団体プロフィール】

協会本部の所在地は兵庫県宝塚市。秋田教室は秋田市南通にあり、折原和子が代表を務める。これまでに年に一 回の作品展示(会場:アトリオン、今年度は秋田市文化創造館)、中通総合病院のギャラリーへの常設展示(季節 に合わせて年4回入れ替え)、また講師として各カルチャースクール、自主サークル、講習会で俳画の指導も行う。



インタビュー記事

【活動スケジュール】



【活動を終えて】

秋田で俳画をどのように皆さんに お知らせするかというところで、申 ても刺激を受けました。

プでは初めてのチラシ作りにも挑戦立てていただきました。 しました。「第37回 俳画作品展」で が、今回はその枠を全て取り払って 展示をしました。コンクリート打ちっ 風船を折り絵を描いて吊るし、キッいます。

チンエリアには海鮮居酒屋をイメー ジした展示も行いました。またアン し込みました。担当スタッフの方とケート調査も初めて行い参考になる 話し合う中で今年は「挑戦する年」で意見をたくさんいただきました。 というスローガンで一年間活動して設置した体験コーナーの参加者に きました。5月のミニ展示では藤館 は後日教室の受講生になった方も 長が作品の展示をご自身でやってく いました。入場者数は529人。体 ださり、今までにない展示方法にと 験者は45人でした。展覧会の様子 を同じパートナー団体のアンリミ 夏休みに行った親子ワークショッ テッドカラーさんにフォトブックに仕

パートナー団体に選んでいただ はこれまでの飾り方をやめて審査の いたことで、収穫の多い一年にな 時に言われた「どこまでくずせるか」りました。新しい展示方法や自由度 ということに挑戦しました。今まではの高い会場の活かし方を学びまし 教室ごとに順番に飾っていました た。そして何よりもなんでも相談に のってくださる担当スタッフの方々 の頼もしさ。創造館の職員の方々 ぱなしの天井を活かすために、紙の気配りと優しさに本当に感謝して



親子ワークショップの様子



「どこまでくずせるか」に挑戦



海鮮居酒屋コーナー

コメンテーターから

何かを描こうとすると、見える世界や生活そのものが変 わってくる。それが一番大事な気がします。俳画協会の皆 様は、そこに導くための俳画という手法や型を実践され ています。すごく大切な活動ですね。

藤浩志(秋田市文化創造館 館長)

コーディネーターから

「どこまでくずせるか?」審査員の方からの言葉を胸に俳 画協会の皆さんは新しいことに挑戦を続けました。さまざ まなアドバイスやアイデアを柔軟に取り入れて実行して いく姿に頭が下がる思いでした。

島崇(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

土方巽記念秋田舞踏会

舞踏劇「イザベラバードの久保田紀行」 写真展「舞踏のある街」



【実施概要】

会員自らの手によるオリジナル舞踏劇「イザベラバードの久保田紀行」を制作・上演。コロナ禍の影響 を大きく受けながらも、9月の千秋公園特設舞台(アジアトライ AKITA 千秋芸術祭)から始まり、10月に 赤れんが郷土館(羽州街道歴史まつり)、そして12月には文化創造館スタジオ A1と、3回の異なる会場 での上演を実現した。また、文化創造館での上演に合わせ、写真展「舞踏のある街」を同時開催。これま で舞踏に触れる機会の少なかった人々にその魅力を紹介した。

【団体プロフィール】

2013年設立。舞踏とその創始者土方巽を秋田の舞踏史と風土において再評価し、秋田を舞踏と土方巽の芸術の 世界的な拠点とするためさまざまな活動を行う。毎月1~2回のペースで舞踏の練習を行いイベントや月例会で発 表。また、毎年千秋公園(秋田市)で開催されている舞踊祭「アジアトライ AKITA 千秋芸術祭」を主催。



インタビュー記事

【活動スケジュール】



【活動を終えて】

土方巽記念秋田舞踏会は、舞 踏劇「イザベラバードの久保田紀 行|と写真展「舞踏のある街|を 開催しました。

ループ「秋田の身體」が中心となっ て脚本 / 演出 / 振付を行い、一 年間にわたる練習を積み重ねて公 演に漕ぎ着けました。明治初期に 日本各地を旅したイギリス人冒険 家イザベラバードの『日本奥地紀 行』をもとに、院内から秋田市ま での道中や出来事を全3幕の舞踏 劇に仕立てて、3回に分けて上演 しました。難解とされる舞踏公演 ですが、イザベラバードの紀行文ら感謝いたします。 を題材とした舞踏劇に仕立てたこ とで、わかりやすく感動したとい うメッセージがたくさん寄せられま した。

特に全3幕を上演した第3回公 油では音響照明に曽我傑氏、ゲ ストに舞踏家・土方巽の直弟子小 林嵯峨氏を招聘したこともあって、 舞踏劇は当会の舞踏研究グ 文化創造館のスタジオ A1の大空 間を活かした迫力ある高レベルの 舞台を展開できました。

> 文化創造館のスタジオ A3で9 日間に渡って開催された写真展 「舞踏のある街| もユニークな展 示会場の特徴を活かした展示が好 評でした。3回の上演を通じて、 多大な協力をいただいた秋田市 文化振興課及び赤れんが郷土館、 文化創造館の担当の皆様に心か





大空間を活かした舞踏劇



写真展の様子

コメンテーターから

以前からいろいろな活動を楽しませていただいています が、積み重ねってすごいなと強く感じました。土方の「病め る舞姫」の研究や読書会、様々な場所で行った公演、そん な積み重ねが大きく花開いたと思いました。本当に素晴 らしい公演でした。

納谷信広(秋田市観光文化スポーツ部長)

コーディネーターから

土方巽の研究、国内外から参加者の集まる舞踊祭の開 催など、これまで独自に積み上げてこられた活動が結晶 化したような舞台と写真展で、文化創造館スタジオ A の 可能性を大きく開いていただきました。

前田優子(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

日 時 | 2022年1月30日14:00~17:00

会 場 | 秋田市文化創造館 2 階 スタジオ A1



報告会の様子

2022年1月30日、秋田市文化創造館パートナー事業の最終報告会を当館のスタジオ A1で開催しました。最終報告会では、7団体の活動報告とともに公開審査会にも登壇したコメンテーターによるフィードバックやゲストとして八戸市美術館の大澤苑美氏によるレクチャーも開催。パートナー団体の一年間の活動を振り返るとともに、団体の次なるステップや新たなプレイヤーの創出につなげることを目的としました。

報告会は団体ごとに10分間のプレゼンと5分間のフィードバックという形で進みます。コメンテーターやゲストの方々からは温かいコメントが寄せられました。

大澤さんのレクチャーでは、八戸市美術館の建築やコンセプト、携わってこられたアートプロジェクトなど、さまざまなお話をいただきました。美術

館の「市民とアートを通じてまちを耕していく」というテーマは創造館にも大きく通ずるお話しだと感じました。

特に印象に残ったのは美術館開館記念「ギフト、ギフト、」です。「ギフト、ギフト、」は八戸を代表するお祭りの「八戸三社大祭」を出発点に、アートを通して"ギフト"の精神を見つめる展覧会とプロジェクトとして開催されました。ギフトとは贈与のことで、例えばお祭りのように過去から未来へと受け継いでいく、お金では買えない価値のことを言います。

大澤さんもご指摘されていましたが、パートナー 団体の活動もまさにギフトな活動であると感じました。団体の方々が蒔いた種から花が咲き、新たな活動が生まれていく。創造館としてもそのためのお手伝いができたらと改めて思いました。

島崇(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)



●秋田市文化創造館パートナー団体

あそびのはじまり実行委員会、アンリミテッドカラー、酒泡酒泡クラブ、ストピリエゾン、全日本積穂俳画協会秋田教室、 土方巽記念秋田舞踏会、MAP(発表順)

●コメンテーター

上田さやか(ヴィレッジヴァンガート秋田オーパ店店長)、齋藤一洋(秋田市デジタル化推進本部長)、

納谷信広(秋田市観光文化スポーツ部長)、藤浩志(秋田市文化創造館館長)

●ゲスト

大澤苑美(八戸市美術館 学芸員)



最終報告会総括コメント

▶ゲストから

大澤苑美(八戸市美術館 学芸員)

団体の皆さんの活動が「やってみたい」という思いから始まっていて、どうやって実現したらいいかわからない方から、新しい可能性を探りたい方まで、さまざまなレイヤーがあるなと思いました。その中で「文化創造館の場の経験値を上げる」というお話も館長の藤さんがされていましたが、創造館と皆さんがお互いにその活動を高め合い広げ合うプラットフォームとしてパートナー事業が機能していると感じました。

市民の皆さんが「これやりたい!」と主体的に行う文化活動には、仕事としてアートに関わっているとか、美術館やホールを運営している私たちにはないキラキラがあるんですよね。そういった活動と並走していくことは私たちにとってもすごく楽しいことで、学びがあるし、発見があるし、新しい世界に連れていってもらえる。この楽しくてキラキラしていることがまちのキラキラを作っていくんだろうなと思っています。

▶コメンテーターから

上田さやか(ヴィレッジヴァンガード秋田オーパ店 店長)

私は正直、お店の店長ということで、普段からまちづくりとかの企画に携わっているわけではないので、初めて3月のプレゼン大会に参加したときに、で、文化創造館でどうすんの?っていうふうに思っていました。ですが8ヶ月経って、いい意味で思ってたのと違う方向に全部が全部いったりとか、思ってたより大きくできたなとか、当初想像していたものと違う結果になったかと思います。自分たちだけではできなかった結果になったと思うと、すごく良い機会だったなと思って、私も携わらせていただいて楽しかったし嬉しかったです。

齋藤一洋(秋田市デジタル化推進本部長)

最近まちの懐とか、まちの器量ということを考えます。まちにも人格があるとすれば、"文化創造のまち"とは、多様性があることとそれを認める許容力があることだと思っています。皆さんの活動を拝見して、これだけ多様な活動をする人たちがこのまちに住んでいて、それをみんながちゃんと認められる場所になってきていると感じました。加えて、新しい視界が開けるようなトライをしてくださったりと、文化創造館が活動の拠点になってきています。こうした変化を積み重ねて創造館から発信していけたらすごくいいなと思いました。

納谷信広(秋田市観光文化スポーツ部長)

きたん

パートナー団体の MAP さんの『トオリマチ奇譚』の絵を拝見して、今から 50 年近く前に夢中になって読んでいた江戸川乱歩の『少年探偵団』を思い出しました。そこに描かれている挿絵を見て、まちの中に似たようなところを探しに行くんですよね。例えばちょっと大きな空き家があると、ここに怪人 20 面相が隠れてるじゃないかとか、そんな感じで友達と大騒ぎしてたのがすごく楽しくて。ちょっとした想像力を働かせることによって、まち中に本当は楽しいことがいっぱいあると思っていたのですが、皆さんの報告を聞いて、秋田のまちなかには楽しいことがいっぱいあるんだと改めて認識しました。

藤浩志(秋田市文化創造館 館長)

例えば友人にしても後輩にしても子どもたちにしても、まちがつまらないとか、関係ないとか、面白くないと言われるのが一番辛いんですよね。こんなまち嫌だとか、誇りも持てないとか。そうではなくて、まちの中は面白いもので溢れてほしいし、興味や好奇心で溢れてほしい、関心の高いことで溢れてほしい。本当は好奇心の種はたくさんあるのだろうけど、ただそれを見ようとしていない、見えない状態になっているのかもしれない。そこから少しずつ関心や魅力を引き出そうと実践しているのが皆さんの活動なのかもしれません。

このような活動をするときに大事だと思うのは、誰に届けるのか、誰とつくのかということです。僕らの周辺には本当に苦しんでいる人がいて、何らかの対話を、関係を、活動を欲している人がいる。そういう人たちにちゃんと届いてるかどうか。それは施設を運営する側の責任でもあるし、もっと努力しなきゃいけないところかと思います。

もちろん、活動がない限りは届けるも何もないので、活動をとにかくつくっていくこと。そしてそれを ちゃんと届けていくこと。そういうことが重要かなと思います。

生きることってすごく大変で、本当に必要としてる人は大勢いると思っています。そういうところに繋がればいいなと思いますので、いろんな連鎖を生み出していくように、一緒に頑張っていきましょう。

事業を終えてコーディネーターより /

前田優子(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

パートナー団体を選出する最終審査会の席で、ある審査員の方が「ここに応募くださった団体は全て、秋田市文化創造館の宝物です」とおっしゃったことが心に強く残りました。実際、7団体の皆さんとの活動一つひとつが、文化創造館の成長の糧でした。これからも、新たな活動が生まれ育つ場でありたいと思います。

齊藤夏帆(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

メンバーから連絡がこないとか、スケジュールが決まらないとか、コロナで開催できないんじゃないかとか、活動しているとしょうもないけど蓄積されると意外と落ち込むことが多発します。でも、それを乗り越えてそれぞれの企画をやり切ることができたのはそれだけ「本気」だったからだと思います。約8ヶ月その「本気 | に寄り添うことができてとても幸せでした。これからもずっと応援しています!

島崇(秋田市文化創造館 プログラムコーディネーター)

やりたいことをやるのは難しい。周りの目も気になるし自信もない。やろうすると「大丈夫?やったことあるの?」の声が聞こえてくる。「応援してる」の裏側には「やめといたら?」が潜んでる。そんな中でさまざまな声を受け入れて、跳ね除けて、「やりたいこと」に邁進する姿には勇気づけられるばかりでした。このような活動が次なる「やりたい」を生み、まちの許容力をあげるのだと感じています。これからも一緒にこのまちを面白くしていきましょう。



秋田市文化創造館 2021年度パートナー事業 報告書

発行日: 2022年3月21日

発 行:秋田市文化創造館(指定管理者: NPO 法人アーツセンターあきた)

写 真:大森克己、菅野証、秋田市文化創造館スタッフ

企画・編集:秋田市文化創造館

前田優子、齊藤夏帆、島崇

〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町 3-16 TEL: 018-893-5656 FAX: 018-893-5659

e-mail:info@akitacc.jp https://akitacc.jp/